



● E コース

# 秋の花

㊦-1 ミズヒキ

㊦-2 カラスウリ

㊦-3 セイタカアワダチソウ

㊦-4 オミナエシ

㊦-5 ヒガンバナ

このコースでは、秋に花や実をつける5つの植物、ミズヒキ、カラスウリ、セイタカアワ、ダチソウ、オミナエシ、ヒガンバナを調べます。

秋は濃い青や赤、紫、赤紫、黄色の花が多くなります。それらは、黄ばんで枯れて褐色の葉が多くなる、秋の自然のなかで目立つ色です。

人家近くの林や竹やぶなどでは、真紅の花をつけたミズヒキや、橙色の果実をつけ木にからまったカラスウリを見つけましょう。

セイタカアワダチソウは日本に帰化した外来種で、しばしば河原などを黄金色に染めるほどに大群生しています。

秋といえば、秋の七草が有名です。いずれも里や山野に咲き、人目を引いた草花ですが、オミナエシはその一つに数えられています。

ヒガンバナは、またの名をマンジュシャゲといいます。昔は凶作に備え墓地や畔など人家の近くに植えました。このコースのなかで、とくにヒガンバナは、全国各地での開花日の正確なデータを知るねらいもあります。



# ミズヒキ

● *Antenoron filiforme*

## ■かたちと大きさ

高さ50~80cmになる多年草。斜めに出た茎には間隔をおいて葉がつく。葉は、楕円形や卵形で、茎へのつけ根部分は少しふくらんで、茎を囲む褐色で膜質の鞘まゆがある。

## ■見られる場所

日陰になった林の縁、浅い林のなか、竹やぶ、墓地などで見られる。山地では、里山や人家の周辺で見られる。

## ■くらし

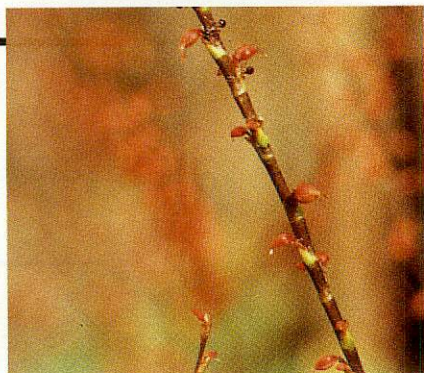
毎年地下茎から芽を出して生長する。果実は小さく、鈎かぎのような突起があって、動物や人の脚などにくっついていき、また種子もよく発芽するので、思わぬ所まで広がっていく。

## ■おもな分布地

ほぼ全国。

## ■見分け方

小さな真紅の花をまばらにつけた細長い花穂はなほをもつこと、楕円形で長さ7~15cmになる葉をまばらにつけること



が、似た種との見分け方のポイント。

## ■注意

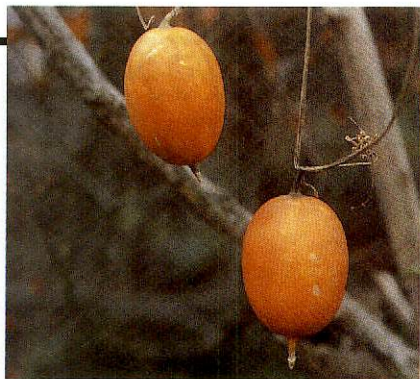
似た種にシンミズヒキがあるが、割合まれにしか見られないので、今回の調査ではとくに区別せず「ミズヒキ」として扱う。





# カラスウリ

● *Trichosanthes cucumeroides*



## ■かたちと大きさ

つるになって伸びる多年草。長さ5 cm ぐらいの楕円形の果実は、橙色をして遠くからでもよく目立つ。葉は五角形あるいは卵形で、毛が生えているため表面はザラザラしている。茎の葉と向かい合うところから巻ひげが出て、木にかままるのを助けている。

## ■見られる場所

山麓や丘陵地、農村の人家周辺の林、やぶの木々にかままって生える。

## ■くらし

花は夏に咲く。夜咲きで、夕闇とともに開き、朝にはしぼんでしまう。花びらは白色で、写真にみるように花びらの先が細かく裂けている。

果実は皮が硬く、破れてからも落下せずに残っているほどである。中にはカマキリの頭や折り紙の奴さんやつこに似た平べったい種子がたくさん入っている。

## ■おもな分布地

北海道を除く、全国。

## ■見分け方

橙色の果実を目印にカラスウリを探そう。似た種にキカラスウリ、モミジバカラスウリ、オオカラスウリがあるが、キカラスウリは果実の色が黄色い点で区別でき、また後の2種は全体によく似ているものの、葉がモミジのように裂けていること、種子が楕円形なこと、さらにモミジバカラスウリでは果実が橙色の地に黄色の縦縞たてじまが入ることなどで区別できる。



夏に咲くカラスウリの花



# セイトカアワダチソウ

● *Solidago altissima*

## ■かたちと大きさ

大人の背丈かそれを越える大きな草。短い毛が密生した茎は、まっすぐ一本立ちして、上方の花をつけた部分以外では枝分かれしない。秋に、濃い黄色の小さな花が茎の上方にたくさん集まって咲く。花の集まる部分は細長い円錐型でよく目立つ。

## ■見られる場所

河原、土手、空き地、埋立地など。よく大群生して、花の時期には一面が黄金色になる。

## ■くらし

北アメリカ原産の帰化植物。鑑賞用に明治時代に渡来して栽培されていたものが逃げ出して各地に広がった。

多年草で、毎年地中をほう茎から新しい芽をたくさん出して広がっていく。

## ■おもな分布地

ほぼ全国。



## ■見分け方

同じ仲間のオオアワダチソウやアキノキリンソウはよく似ているが、これらとは、セイトカアワダチソウが10～11月に咲くこと、高さが1～2.5mになること、茎や葉に短い毛が密生し、触るとザラザラすること、などで区別できる。

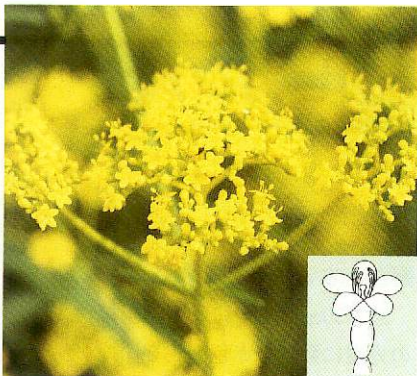


# オミナエシ

● *Patrinia scabiosaeifolia*

## ■かたちと大きさ

高さ60～100cmになる草。茎は上方にまっすぐに伸び、間隔をおいて数対の向かい合った葉を出す。葉には切れ込みがある。晩夏から秋にかけて、茎の上方にたくさんの黄色い小さな花を咲かせる。



## ■見られる場所

日当りのよい山や丘陵地の草原、野原で見られる。

## ■くらし

多年草で、地中にある茎が分かれて新しい苗となり増えていく。花は上向きに咲き、花の後には小さな楕円形の果実ができ、こぼれて広がる。

## ■おもな分布地

ほぼ全国。

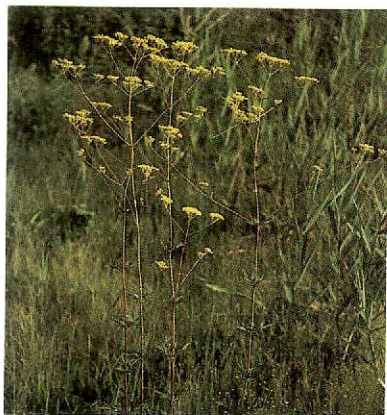
## ■見分け方

オトコエシとは、その花が白色で、果実の周りには風で飛びやすいような翼がある点で区別できる。また、花が黄色のキオン、アキノキリンソウなど

のキクの仲間の植物もオミナエシに似るが、オミナエシの花が、キクの仲間とは違って、変形した花がたくさん集まって1つの花をつくるのではなく、小さいながらも一つひとつの花が独立していることで区別できる。

## ■注意

庭園や切り花用に栽培されることもあるので、注意が必要。



# ヒガンバナ

● *Lycoris radiata*

## ■かたちと大きさ

高さ30cmぐらいになる球根植物。茎の先端に数個の赤色の花を開くが、花をつけた茎にはまったく葉がない。花には6枚の花びらがある。

## ■見られる場所

田畑の畔道、墓地、河原、土手、空き地など、ひとけのある所に見られる。

## ■くらし

葉は花が咲き終えた後に、地中の球根から伸び出し、越冬して翌年の3～4月頃に枯れる。球根は楕円形で、黒褐色の皮に包まれている。

## ■おもな分布地

ほぼ全国。

## ■見分け方

ヒガンバナの花が赤色であること、雄しべは花びらより長く花びらから外につき出ていることで、似た種と区別できる。ショウキズイセンやシロバナマンジュシャゲの花の色は黄色や白色で、キツネノカミソリは花が赤黄色で、



雄しべが花びらと同じくらいの長さをしている。

## ■注意

ヒガンバナはマンジュシャゲと呼ばれることもある。また地方によっては、カブレバナ、チョウチンバナ、キツネバナなどと呼ぶ。

なお、ヒガンバナの調査は、分布の状況をつかむ他に、各地の開花日を調べるというテーマを設けました。花を見た場合は、調査票にその日付も記入してください。

